

平成28年度入学式 式辞

春の日ざしに桜が鮮やかに映える素晴らしい季節となりました。本日、全国各地から、そして諸外国から、あわせて1945名の皆さまを、愛媛大学の新入生としてお迎えすることができました。「ご入学、おめでとうございます。」愛媛大学を代表し、心より歓迎いたします。

また、ご多用にもかかわらず、ご臨席を賜りました、愛媛県各界のご来賓の方々愛媛大学校友会あるいは後援会・同窓会代表の皆様、名誉教授の先生方に厚く御礼を申し上げます。そしてまた、この佳き日にご列席いただいた新入生のご家族、ならびに関係の皆様方、お慶びはひとしおのことと存じます。心よりお祝いを申し上げます。

愛媛大学は、昭和24年に新制国立大学としてスタートし、今年で67年目を迎えます。法人化した平成16年以降は、「学生中心の大学」、「地域とともに輝く大学」「世界とつながる大学」の実現を目標に、教育、研究、地域連携、国際連携の各分野においてさまざまな取り組みを行い、現在、全国的にも注目される地方大学のひとつに成長しています。

今年度から始まります第三期中期目標期間のビジョンには、「輝く個性で地域を動かし、世界とつながる大学」を掲げ、これを達成するために、「地域の持続的発展を支える人材の育成」、「地域産業イノベーションの創出」および「世界をリードする最先端研究拠点の形成・強化」の三つの戦略を打ち出しています。特に、「愛媛大変わる。」というキャッチコピーでお分かりのように、地域人材、そしてグローバル人材の育成に向け、この四月に開学以来と言ってもいい大きな教育組織の改革を断行いたしました。中でも、新学部である「社会共創学部」には、地域をそして愛媛県を担う人材輩出のトップランナーとして大いに期待をしているところです。

さて、何年か先、皆さんが巣立っていく社会には、きっと様々な試練が待ち受けていることでしょう。これから始まる4年間あるいは6年間の大学生活は、皆さんが自立した社会人として生き抜く力を養っていくためのかけがえのない期間です。これから大学生活を始められる皆さんに、私の名字「大橋」のインシャルの「O」にちなみまして三つの「O」からなるアドバイスを贈らせていただきたいと思います。

一つ目の「O」は、「Outgoing」です。高校時代の皆さんの行動範囲を思い起こして下さい。多分、同級生や後輩、先生など、千人くらいまでの社会の中で暮らしていたと思います。人間は成長とともに自己の生活圏すなわち活動域を拡大し、未知の体験を重ねていく中でより逞しくなっていきます。大学は、高校とは比べものにならない大きなスケールの社会であり、そこでは、自分で考え、行動して、自分のやりたいことを見つける必要があります。何かがあるのを待っているのではなく、何か新しいことがないか、面白いことはないかと、自分の目で、自分の足で積極的に探しにいかなければなりません。ちょうど、池に石を投げ込んだ後に波紋が周囲に広がっていくように、自分自身のアンテナを、センサーを「外へ」、「外へ」と広げましょう。「Outgoing」の精神で積極的に行動し、自分の夢を見つけ出すことが重要です。

二つ目の「O」は「Open mind」です。ご存知のように、大学には、県外出身者、外国からの留学生、指導教員、そして職員など、いろいろな人たちが所属し、活動しています。愛媛大学の場合、その数は優に1万人を超えています。これほど多様な構成のコミュニティは他にはなかなかありません。

昨年度も強調させていただいたのですが、重要なのは、そうしたコミュニティの中で、できるだけたくさんの人と触れ合い、多くの友だちを作ることです。ただし、これを実現するためには、誰とでも話せる寛大で柔軟な心が必要です。人には他人を受け入れることのできる一定の許容範囲があります。私はこれを「友だちスペクトル」と名付けていますが、人間としてさらに成長していくためには、このスペクトルの幅を意図的に広げていく必要があります。今までなら避けていたような人とも積極的に話をしてみてください。「Open mind」の姿勢が皆さんの世界を広げ、大学生活をさらに有意義なものにするはずですよ。

三つ目の「O」は「Optimism」、すなわち「楽観主義」です。この言葉、ラテン語の「Optimus：最高の」に語源があり、その反対が「Pessimism」、「悲観主義」であります。「楽観主義」というと少し軽く聞こえるかも知れませんが、何もしない「楽天主義」とは大きく異なります。今でいう「ポジティブ思考」のもとになる考え方で、幸せな人生を送る上で不可欠な要素であると私は考えています。

よく例にあげられるのは、イギリスの劇作家、ジョージ・バーナード・ショーの名言ですが、彼は、グラスの半分まで入っているワインを見て「半分しか残っていない！」と嘆くのが悲観主義者で「まだ半分も残っている！」と喜ぶのが楽観主義者であると述べています。このように、単一の事象であっても、その人の考え方一つでマイナスにもプラスにも感じ取れるのです。

一方で、「悲観主義は感情から来るもの、楽観主義は意志から来るもの。」というフランスの哲学者、アランの「幸福論」からの言葉もあります。彼は、悲しいことがあっても、うまく行かないことがあっても、「いつかは実現できる」と意志を持って前向きに立ち向かうことの重要性を説いており、これを「上機嫌療法」と呼んでいます。誰の心にも「楽観主義」と「悲観主義」は共存していますが、人生の局面、局面において、そのバランスを少しでも「Optimism」側へと意識的にコントロールしてみることです。きっと物事をポジティブに捉える習慣が生まれることでしょう。

現代社会では、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が国境を越えて流通し、あらゆる分野でボーダーレスな世界が生み出されています。その一方で、モノのインターネット化が非常な勢いで進展し、私たちの回りのあらゆる「モノ」がネットワークで繋がれようとしています。こうした「超グローバル社会」、「超スマート社会」に備え、柔軟で逞しい社会適応力をこの愛媛大学で身につけていただく必要があります。その手始めに、「Outgoing」で行動範囲を広げること、「Open mind」で誰とでも仲良くすること、「Optimism」で物事をポジティブに考えることから始めてみませんか。この三つの「O」を新入生の方々に改めお贈りし、本日の式辞の結びといたします。皆様のご健闘を心より期待しています。

平成28年4月6日

愛媛大学長 大橋裕一